

(通巻第 23 号)

2016年度事業計画書



社会福祉法人

サンフレンズ

目 次

I	法人の理念と運営方針	1
1.	サンフレンズの理念	
2.	サンフレンズの運営方針	
II	2016年度 法人全体の重点目標	2
III	事業所別事業計画	
1.	上井草拠点	
	上井草園	4
	上井草ふれあいの家	5
	上井草支援センター	6
	ケア24上井草	7
2.	サンフレンズ地域包括拠点	
	サンフレンズ善福寺	8
	ケア24善福寺	9
	永福ふれあいの家	10
	松ノ木ふれあいの家	11
	和泉ふれあいの家	12
	和田ふれあいの家	13
	サンフレンズ訪問介護センター	14
	和田サービス付き高齢者住宅・和田みどりの里	15
	サンフレンズ和田堀支援センター	16
3.	法人事務局	
	人事・経理・総務・地域福祉推進担当	17
IV	2016年度 法人全体の組織図	
V	安全衛生管理 年間計画	

I 法人の理念と運営方針

社会福祉法人サンフレンズの理念と事業の運営方針は、次のとおりです。
この理念と運営方針は毎年度の事業方針と計画の基本となるものです。

1. サンフレンズの理念

(1) できるだけ自由に

・・・ 画一的、管理的にならず、一人ひとりがその人らしく生きられる。

(2) どこまでも対等に

・・・ 一人ひとりの人権を尊重し、すべての人が上下関係でなくつきあえる。

(3) 他者への思いを生かし合う

・・・ 地域社会でともに生きる人々との連携、地球環境、平和への願いを大切にする。

2. サンフレンズの運営方針

(1) 利用者のプライバシーと自立を尊重し、自己実現を助けることを一人ひとりの立場に立って行います。

(2) 利用者、家族、ボランティア、職員、理事などがお互いの立場を尊重し、民主的運営を行います。

(3) 他のグループや世代間の交流を図り、生活の質を高め、地域の福祉文化の拠点となることをめざします。

Ⅱ 2016年度 法人全体の重点目標

1. 視点

昨年度は介護保険制度改正により介護報酬の実質引き下げとなり、法人全体の収益にも影響が及びました。しかし、決算見込みとしては黒字を維持できる見通しとなりました。その内訳としては、一昨年度と傾向は変わらず、収入が目標に到達できなかった以上に支出の大きな割合を占める人件費の抑制が大きい要素でした。

2年続いたこの傾向について、今年度、収入面では当法人が事業運営を行っている地域において、地域住民のニーズに即したサービス提供のあり方について調査・検討をし、対策を講じてまいります。支出面では、やみくもに人材確保に奔るのではなく、各事業所の現状に即した適正人員配置を再考し、収入に対しての人件費率を常に意識しながら運営してまいります。

今年度より、現行の予防給付の訪問介護・通所介護が介護予防・生活支援サービス事業へ段階的に移行していくこととなります。2018年度の本格実施に向け、当法人の通所介護・訪問介護事業の在り方についても見直しを進め、ニーズに即した事業運営へと変化をさせていく必要があります。

同時に安定した事業運営をしていくためには人材の育成と定着が必要となります。2年間にわたって検討を重ねてきた職員の資質向上の支援に関する計画（キャリアパス）であるステップアップ制度が今年度から開始します。職員が将来ビジョンを描きながら職業人として成長していくことができるよう、本制度についても形骸化させることなく、常に変化を繰り返しながら運用してまいります。

来年度より実施される社会福祉法人制度改革に向けて、今年度はその移行期間となります。制度改革に位置づけられている、経営組織のガバナンスの強化・事業運営の透明性の向上・財務規律の具体的強化策を検討するとともに、地域における公益的な取り組みの内容や、地域社会に貢献していく法人のあり方についても制度の動向を見据えながら研究をしてまいります。

そのような中、法人の重点目標は昨年度に引き続き、法人の健全経営、地域貢献、利用者サービスの向上、人材確保として定め、変革の1年を職員全体で乗り越えてまいります。

2. 年間の重点目標

(1) 健全経営

今年度の予算を作成する際の収入と支出の見込みについては精度を高くするようにし、事業計画上で位置づけている費用のかかる計画が予定通り執行できるように実施をしていく。昨年度より、事業報告は達成度合いを数値化しているので、計画上も数値化できる目標設定をしていく。

また、職員の安定的確保のために効果的な処遇改善のあり方を検討し費用を充てていくこととする。

次年度の社会福祉法人制度改正に伴う移行年度に当たるため、スムーズに移行ができるよう法人全体で取り組んでいく。

(2) 地域貢献

社会福祉法人制度改正に伴う地域貢献のあり方について政策的な動向を見据えながら法人としての方向性を検討していきたい。検討にあたっては自法人だけではなく、杉並区内の他社会福祉法人と協働しての取り組みも進めていく。

関連して一般社団法人化したSOS事業との事業協定の在り方も引き続き検討をしていく。

また、各事業所で重点的に取り組んできた、各種学校の実習生・研修生の受け入れについても重点的に各事業所で取り組み、将来の社会福祉人材の育成とともに当法人の職員としてエントリーして頂けるよう取り組んでいく。

(3) 利用者サービスの向上

引き続き、利用者・家族に選んで頂けるサービスの提供については、各事業所で取り組んでいく。それに当たっては、利用者のニーズを確実につかみながら評価が利用実績につながっている自法人・他法人の事業所の成功例にも学んでいく。必要に応じて職員を視察に派遣し、他職員とも共有する機会を設けていく。また、事業所単位で3年おきに実施している第三者評価の利用者ニーズ調査結果も活かして、利用者ニーズに応えるサービス提供を目指していく。

(4) 人材確保

今年も、新卒対策として就職ナビを活用し、就職フェアへの参加も積極的に実施していく。当法人に直接申し込みをして頂けるようなホームページをはじめとする各種媒体のフル活用を行うとともに新卒学生については内定辞退率を少なくできるよう就職までのサポートをしていく。

また、実習受け入れ先の大学からの紹介によって就職につながったケースもあるので引き続き実習生受け入れも積極的に実施していく。

Ⅲ 事業所別事業計画

特別養護老人ホーム上井草園

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全経営	①	特養稼働率96%以上 短期入所稼働率112%以上	①空床を作らない特養待機者への継続的新規訪問の実施 ②短期入所希望者のコンスタントな新規訪問
	②	職員研修の充実(学びあう)	①介護技術の向上 ②食事サービスの充実 ③リスクマネジメント ④ケアマネジメント研修
地域貢献	①	家族・地域に向けた、介護者教室の開催	①地域の身近な介護相談窓口機能の構築 ②顔の見える関係作りの構築
	②	実習生の受け入れ	①福祉人材の育成（社会福祉士・介護福祉士・職場体験他）
利用者サービスの向上	①	その人らしさの実現	①不適切ケアを失くす ②いいねプロジェクトの発展
	②	リハビリテーション・アクティビティの充実	①生活リハビリ実施率向上及び内容の充実 ②外出・外食(外注含む)機会を設ける
人材確保	①	職員面接の実施	①常勤面接の実施(4回/年) ②非常勤面接の実施(2回/年)
	②	新卒学生の確保	就職フェアへの参加

上井草ふれあいの家

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
経営 健全	①	法令遵守	アセスメント、介護記録、通所介護計画、予防モニタリングの作成管理
	②	業務改善	連絡方法の改善、情報一括管理、書類の整理によって ①連絡ミス防止 ②業務効率化を図る
	③	利用率向上	月～土曜利用人数 35人/日(75%)
貢献 地域	①	ボランティア受入れ	述べ人数 150人/月
	②	地域の小中学校 体験実習受入れ	中学校職場体験 ボランティア体験受入れ 5校
	③	家族介護教室	年4回
ビスの 向上	①	情報発信	①モニタリング 30名実施
	②	外出機会の提供	グループで外出
	③	個別サービスの提供	機能訓練 10人/日入浴 20人/日
確保 人材	①	職員研修	事業所内研修 随時

サンフレンズ上井草支援センター

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全 経営	①	適正件数到達	毎月の達成率 96%以上を達成を目指す
	②	特例事業所加算Ⅲ運営	日々の通常業務から、適切なケアマネジメントを積み重ねていく
地域 貢献	①	地域連携活動	1. 井草圏域地域ケア会議 2. 主任 CM 会議 3. 区・CM 協議会 4. 上井草園内連携
	②	地域活動への参加	清掃活動の実施
利用者 サービスの 向上	①	相談支援業務の徹底	通常業務の中で特に相談支援業務の必要性、重要性を理解し実践する。
	②	制度理解・情報共有	総勢 6 名という CM 数の規模を生かし、各 CM が持つ知識、情報、経験を共有し、もって利用者サービスの向上に資するようにする。
人材 確保	①	研修計画立案・実施、実習生受 入体制作り	1.研修計画立案・実施 2.実習生受入
	②	法人内業務分掌への参画	1.安全衛生委員会 2.感染症対策委員会 3.防災委員会 4.オンブズマン協力委員会 5.オンブズマン委員会

地域包括支援センターケア24上井草

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全経営	①	実績収入の最大限の確保	①予防給付:170件/月 ②実態把握:690件/年 ③家族介護教室:7回/年
	②	超過勤務の削減	それぞれの職員が前年度よりも削減することができる。
地域貢献	①	認知症理解への取り組み	①認知症サポーター養成講座の開催(120人/年の受講) ②講座修了者のフォローアップ(人材育成)
	②	出前相談会の継続	①井草3丁目区営集会所(1回/2~3カ月) ②上井草1丁目区営集会所(2回程度/年) ③サンカフェ上井草(毎月第2日)
利用者サービスの向上	①	地域課題の把握	①在宅医療地域ケア会議(年3回) ②個別地域ケア会議(月1回) ③事業者間(多職種)交流(2クール) ④地域懇談会(年1回)
	②	ケア24活動の広報・周知	①ケア24上井草だよりの発行(4回/年) ②地域コム、法人HP活用(毎月更新)
人材確保	①	新任職員の育成	①-1 日常業務のOJT ①-2 包括職員初任者研修 ①-3 研修参加 ②法人内連絡会の実施

サンフレンズ善福寺

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全経営	①	利用率向上	①特養1日30床中29床以上 ②ショートステイ1週間28床中27床以上 ③ショートステイ午前退所・午後入所の提案
	②	生活相談員、介護支援専門員、施設長の役割を決めて、サンフレンズ善福寺の組織固めをする	・介護職兼相談員の役割確定 ・相談員件介護支援専門員の役割確定 ・事務職の役割確定 ・施設長の役割確定
	③	支出の適正化	① 介護職員 16 名(常勤換算)での事業実施
貢献 地域	①	地域への発信	①家族、ボランティア、地域の方が参加できる事業所内研修の実施
	②	実習生・ボランティアの受入	①社会福祉士実習生の受け入れ ②介護福祉士実習生の受け入れ ③介護福祉士実習指導者の養成
	③	地域活動の開催と参加	①自治会との防災協定締結 ②震災救援所訓練への参加 ③善福寺サロンの開催(月1回)
利用者サービスの向上	①	介護の質の標準化	①アセスメントに基づくケアプランを適宜作成し(基本は年1回)家族を含めたカンファレンスを実施する。
	②	職員研修	①外部研修への参加 ①内部研修の実施(毎月1回)
人材確保	①	職員研修	①外部研修への参加 ※キャリア形成に配慮 ①内部研修の実施(毎月1回)
	②	就職セミナーへの参加	外部で行われる就職セミナーへ介護職員を随時派遣する

地域包括支援センターケア24 善福寺

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全経営	①	最大限の実績収入確保	①予防給付月 225 件 (自主 145 件・委託 80 件) ②実態把握年 690 件 ③新予防プラン年 15 件 ④家族介護教室年 7 回
	②	超過勤務削減	毎月の超過勤務を職員 1 名につき 3 時間以内に抑える。
地域貢献	①	地域発信型介護予防事業 (地域の居場所とつながる)	①かがやきサロン ②善福寺サロン ③地域で安心サロン ④西荻北きずなサロン ⑤けやきの見える家 ⑥活動の広報・サロンマップ情報更新(ケアたより)
	②	地域の担い手発掘 (住民による地域の理解)	①ご近所ささえあい講座 企画・実施全 4 回 ②町会単位でのたすけあいネット地域連絡会毎月開催
利用者サービスの向上	①	地域住民への啓発活動	①認知症サポーター養成講座年 3 回 ②桃井第四小学校児童への啓発授業 ③荻窪中学校生徒への啓発授業
	②	地域ニーズ・地域課題の把握	①地域ニーズ調査の分析と活動計画づくり ②在宅医療地域ケア会議年 3 回開催 ③個別ケース検討型地域ケア会議年 4 回開催
確保人材	①	職員の育成	①日常業務上の OJT ②地域包括職員対象研修の参加 ③ケアマネジャー実務従事者研修の参加 ④法人連絡会の実施
	②	法人他事業所との研鑽	法人内相談員職種との情報交換・勉強会を下半期で 2 回実施

永福ふれあいの家(一般デイ)

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果	
健全 経営	①	利用率の安定	1日平均43名以上の利用受け入れ	
	②	地域支援通所事業の運営	自立支援通所事業の開始及び安定運営	
	③	法令に順守した運営	計画書類作成の更新管理	
地域 貢献	①	ボランティア・実習生 の受け入れ	①永福学園現場実習(福祉課・清掃課) ②明治大学ボランティア講座 ③教員免許介護等体験 ④中学生職場体験	
	②	地域に向けての活動	①家族介護者教室(4回) ②地域住民を対象とした文化活動の場(年に3回実施)	
	③	短期集中予防事業	①基準通りに従業員の配置できる。 ②事業参加率 80%	
質の 向上	利用者 サービスの	①	趣味活動の充実	①マニュアルの作成 ②各曜日の午前・午後でひとつのクラブ活動を実施する。
		②	日々のプログラム活動の充実	①季節感の感じられる行事(マニュアル整備) ②年1回の外出
人材 確保	①	労働環境の改善	特定の職員の業務負担の偏りの軽減。 常勤超過勤務昨年度比月平均25%減。	
	②	職員研修の実施	月1回の職場内研修実施。(年10回予定。年度末等繁忙期は除く。)	

永福ふれあいの家(認知症対応型デイ)

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全 経営	①	1日3名の利用者来所	一日平均して3名の来所を目標とする。
地域 貢献	①	関係期間への事業廃止の報告	関係機関やご家族へ丁寧に説明を行い事業廃止についてご理解いただく。
利用者 サービスの 向上	①	利用率の安定事業廃止に伴い環境 の変化等が発生するが、安全に過 ごして頂く	事故等無く、安全に過ごして頂く。
人材 確保	①	安定した気持ちで業務に臨む	離職等なく安心して業務に望める環境を整備する。

松ノ木ふれあいの家

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
経営健全	①	安定した収入の確保	①1日平均25名以上の受け入れを行う。 ②入浴介助サービス1日7名以上
	②	法令に遵守した運営	①通所介護計画書・モニタリング・アセスメントの定期的更新 ②第三者評価の受審
地域貢献	①	地域活動への参加	①地域活動への参加 ②家族介護者教室年4回開催
	②	学生ボランティアの受け入れと育成	①学生ボランティア、介護体験の受け入れと育成。 ②近隣ボランティアの受け入れ。
利用者サービスの向上	①	年間を通して季節感を感じられるプログラムの実施	①年間行事8回以上開催 ②外出プログラム5回以上開催
	②	サービスの質の向上に向けた組織的な仕組みづくり	①ステップアップシート基に職員自らが自己評価し、所長と面談を行い、今後の課題と目標をたてる。 ②進捗状況の確認 ③最終評価と次年度の目標設定。
人材確保	①	労働環境の整備	職員が働きやすい環境を作る ①適切な職員体制の確保 介護職員1日5名以上配置。 ②業務分担を明確にする。
	②	職員の人材育成	職員各自のスキルや意欲を引き出す。 ①内部研修年5回開催 ②外部研修へ各職員年2回以上参加。

和泉ふれあいの家

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全 経営	①	安定した収入の確保	目標 1 日平均利用者数 27 名を目指す
	②	法令遵守した経営の継続	計画書類の整備
地域 貢献	①	地域活動への参加と社会貢献	①近隣ボランティアの受け入れ ②家族介護者教室の年4回開催
	②	学生ボランティアの受け入れ	学生ボランティアの受け入れと育成。
利用 者の 質の 向上	①	サービスプログラムの充実	毎月 1 回以上行事の実施
	②	選択できるサービスプログラムの策 定	個別ニーズに対応できるよう3つのサービスプログラ ムをクラブ活動化してサービスメニューにする
人材 確保	①	職場の職員体制の安定化	職員が健康的に仕事ができるように就労環境を改善 する ①年間公休数 100%の消化 ②有給休暇取得率 50%以上
	②	職員の人材育成	安全で健康的に仕事ができるように、職場内研修を 年間 10 回の実施する。(勉強会を含む)

和田ふれあいの家

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全 経営	①	安定した収入の確保	①1日平均 26.25 名以上の受け入れを目指す ②入浴者は1日 15 名を目指す
	②	法令に遵守した経営	①通所介護計画書・モニタリングアセスメントの定期的更新
地域 貢献	①	ボランティア、実習生等の受け入れ	①介護等体験の学生 ②ボランティアの受け入れ
	②	地域住民、各関係機関との協働	①定期会議、訓練への参加 ②介護者教室年 4 回の開催する事で地域住民の介護力の向上に貢献
利用者サービス の質の向上	①	プログラムの充実	①認知症予防プログラムの継続 ②季節感を味わえるプログラムの充実
	②	定期的な研修の開催	①年 4 回の介護技術の向上を目指した研修の開催 ②毎年定例の研修の開催
人材 確保	①	職員の人材育成	職員のスキル向上として ①内部研修の開催 ②外部研修の参加 ③伝達研修の開催 新人職員の教育マニュアルの作成
	②	随時人員の確保に努める	①チラシの配布、口コミ等による人員募集 ②職員が疲弊しない職場環境作りの継続

サンフレンズ訪問介護センター

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全 経営	①	安定したサービスの確保	常勤会議 1 回／月
	②	法令に遵守した運営	①訪問介護計画書・モニタリングアセスメントの更新 ②記録の整備
地域 貢献	①	ふれあいの家、サ高住、みどりの里 への通所、入居者の非常時、災害 時の避難等の協力	年に 2 回の避難訓練に参加
利用者 サー ビスの 質の 向上	①	訪問介護員等に対して利用者情 報・留意事項伝達・技術指導を目的 とした会議を開催する。	全体会議(個別ケース検討会含む)1 回／月
	②	利用者情報やサービス提供時の留 意事項を連絡票や提供記録等の書 面により確実な方法で訪問介護員 に伝達する。	報告内容を提供記録等の書面に記録
人材 確保	①	訪問介護員の研修計画を策定し、 実施する。	職員のスキル向上として ①内部研修の開催 ②外部研修の参加 ③伝達研修の開催 * サ責は内部研修の講師を担当する事で技術の振 り返りを図る
	②	訪問介護員の増員を図る。	①チラシの配布、口コミ等による人員募集 ②安全衛生委員会の定期開催 職場環境作りの継 続

和田サービス付高齢者住宅・和田みどりの里

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全経営	①	2016 年度以降の和田拠点(和田ふれあいの家・サンフレンズ訪問介護センター・サービス付き高齢者住宅・和田みどりの里)の検討を進める。	談話室等の使用内容の変更検討
	②	緊急時や災害発生時に即対応できる体制を整え、設備管理と操作の知識と居住者の安全確保等の技能を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施 ・非常通報の対応 ・一斉放送の環境整備
地域貢献	①	談話室を拠点としたサロン活動を提案し、地域の方々との交流の機会を進める。	・談話室の地域利用
利用者利用者のサービスの質の向上	①	食事提供時間を拡大しご利用者の生活リズムに沿ったサービス提供を目指す	現在よりも 30 分拡大
	②	サービス付き高齢者住宅・みどりの里それぞれに居住している方々が互助できるよう顔の見える関係作りを支援する	月 1 回の定例会の実施
人材確保	①	職員の人材育成	職員のスキル向上として <ul style="list-style-type: none"> ①内部研修の開催 ②外部研修の参加 ③伝達研修の開催 新人職員の教育マニュアルの作成

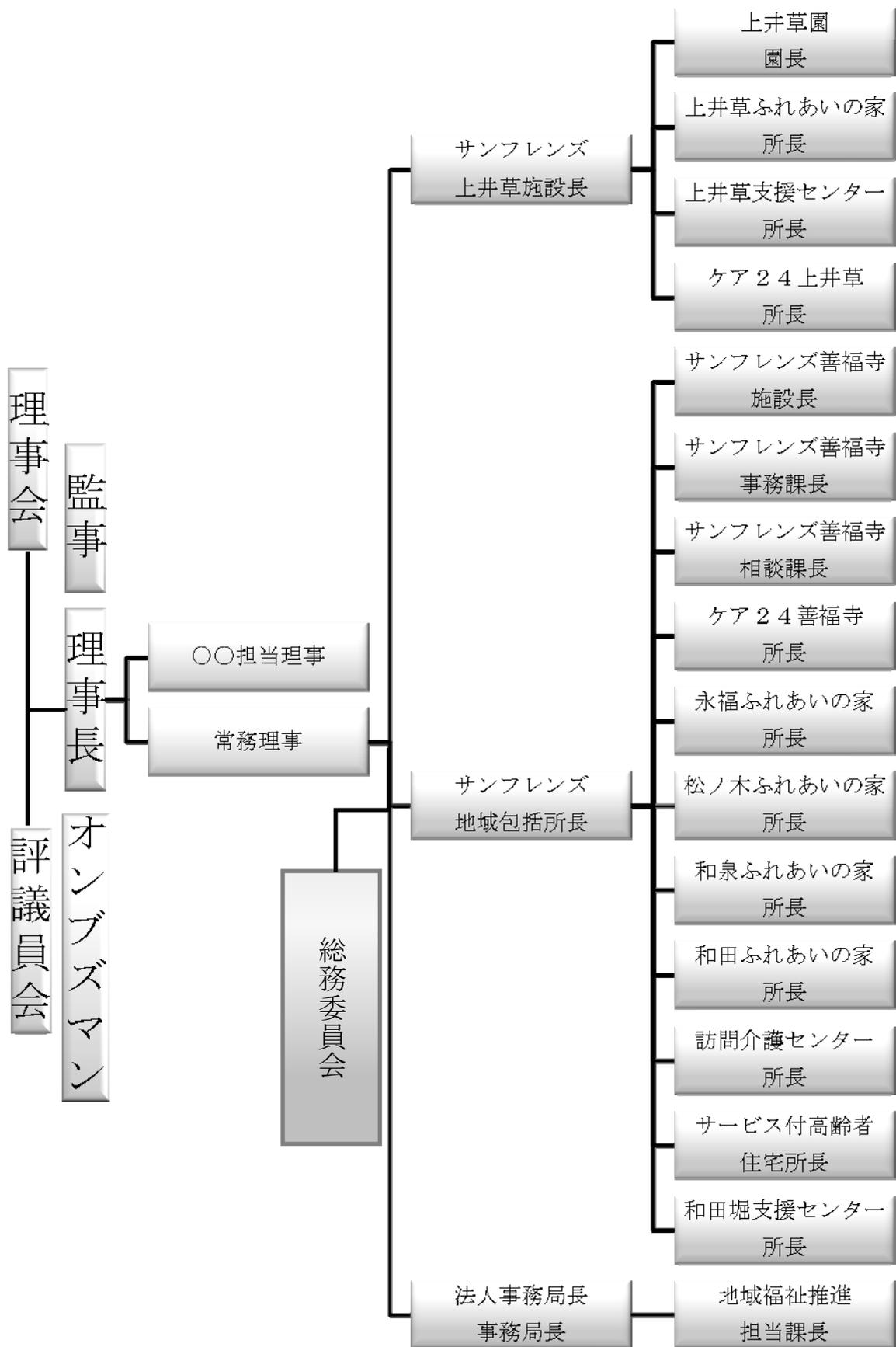
サンフレンズ和田堀支援センター

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
経営 健全	①	適正件数 207 件をクリアーする	①毎月の達成率96%以上を目指す。
	②	特定事業所集中減算の適応を受けないよう中立性を確保する	①毎月特定事業所の割合が 80%を越えないようにする。
地域 貢献	①	地域ケア会議へ参加する	① ケア 24 永福地域ケア会議 ② ケア 24 方南地域ケア会議 ③ ケア 24 堀ノ内地域ケア会議 ④ ケア 24 和田地域ケア会議 ⑤ ケア 24 松ノ木地域ケア会議 ⑥ ケア 24 梅里地域ケア会議 ⑦ケア 24 成田地域ケア会議 ⑧ほほえみプロジェクト会議 に積極的に参加する。
	②	ネットワークを活用する	①地域の情報を発信する。 ②介護者教室に参加する。
利用者 サービスの 向上	①	アンケート調査の実施	地域ニーズと課題の把握と利用者満足度の実施
	②	質の高いケアマネジメントの追求	利用者の状況等に関する情報を共有する
人材 確保	①	今いる人の働きやすい職場づくり	職員が共に支えあう事業所運営を構築する(職員の満足度を追求する。)
	②	法人内でケアマネ希望者を募る	法人内でケアマネの育成をする。

法人事務局(経理・人事・総務・地域福祉推進担当)

施設 目標	施設の具体的目標		指標・成果
健全経営	①	社会福祉法人制度改正に伴う移行準備	①定款変更 ②新評議員・新役員候補者選定に係る準備 ③情報公開ルールの見直し
	②	中長期にわたる事業計画の立案	①運営している事業の見直し ②適性人員配置の見直し ③将来にわたって係る費用の算出 ④中長期の財務計画に着手
貢献地域	①	社会福祉法人制度改正に伴う移行準備	地域における公益的な取組の実施内容に沿った社会福祉充実計画作成
利用者サービスの向上	①	事業費・事務費の適正な執行の目途をつけ来年度の予算を反映	①設備保全計画を作成する ②委託業者・購買先の見直し ③コスト削減の見直し ④来年度予算に反映
	②	受託事業(和泉みどりの里)生活協力員業務のサービス向上	入居者の安心・安全な生活を支援していく。
人材確保	①	新卒学生・中途採用職員の目標数確保	①新年度内定者13名(毎年の平均退職者数目安) ②中途採用は新卒学生内定者数不足人数分(10月の時点で募集人数を確定する)
	②	キャリアパス運用に関する検討の継続	年度計画に基づき来年度からの人事考課制度の本格始動まで進める

IV 2016年度法人全体の組織図



V 2016年度 安全衛生管理 年間計画

安全衛生基本方針	職員一人ひとりが、生き生きとやりがいと責任を持って日々の業務を遂行できるよう、心身の健康管理の充実、適切な労務管理、快適な労働環境づくりに積極的に取り組んでいきます。	今年度の目標	① 職員の健康管理の充実 ・健康診断受診率100% ・事後措置の充実 ・規程に則った健康管理 ・非常勤職員の健康管理 ・超過勤務者に対する産業医面談の実施 ② メンタルヘルス対策の強化 ・心の健康づくり計画の策定と運用 ・職場復帰支援プログラムの策定と運用 ・ストレスチェックと面談の実施 ③ 腰痛予防対策の強化 ・取り組み体制の整備 ・腰痛者の減少												
実施項目	実施内容	実施責任者	実施スケジュール												備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
安全衛生管理体制	安全衛生委員会の開催(月1)	衛生管理者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	【4か所】 ・サンフレンズ上井草 ・サンフレンズ善福寺 ・サンフレンズ訪問介護 ・永福ふれあいの家
	職場巡視(週1)	衛生管理者	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	職場巡視(月1)	産業医	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	衛生管理者の増員		受験者決定				申込		試験	発表					東京会場
健康管理	定期健康診断(年1回)				準備	○	結果通知	事後措置	結果分析						対象: 社会保険加入者
	特殊健康診断(6カ月ごと)										準備	○	結果通知	事後措置 結果分析	対象: 夜勤従事者
	非常勤の健康診断チェック		○	→	→	→	→	→	○	→	→	→	→	→	4月10月の契約更新時に各所長か
	雇入時の健康診断・腰痛健康診断		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	インフルエンザ予防接種									準備	○				
	産業医による超過勤務者の面接指導		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
健康相談・健康情報	産業医・保健師	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
腰痛予防対策	作業管理	各所長													
	作業環境管理	各所長													
	腰痛健康診断(6カ月ごと)				準備	○	事後措置	結果分析			準備	○	事後措置	結果分析	
	健診ハイリスク者の個別プログラム														
メンタルヘルス対策	労働衛生教育						○						○		
	心の健康づくり計画		策定											評価	
	ストレスチェック(年1回)				準備	○	結果通知	面接申出	面接指導	事後措置					年1回実施義務
	ラインケア研修							○							
	セルフケア研修							○							
喫煙対策	職場復帰支援プログラム		審議	—	—	—	—	→	策定					評価	
	相談窓口		設置												
喫煙対策	施設内完全禁煙	各所長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

発行日 2016年5月

社会福祉法人 サンフレンズ

「2016年度事業計画書」

法人事務局

〒167-0023

東京都杉並区上井草3丁目33番10号

電話 03-3394-9833

FAX 03-3394-9834

ホームページ <http://www.3friends.or.jp/>